

取扱説明書

形名 **RSS-AZ55**
レグザサウンドシステム

このたびはレグザサウンドシステムをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

お求めのレグザサウンドシステムを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。

お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

ご使用前に、「安全上のご注意」（4～8 ページ）を必ずお読みください。

本機でできること

本機は簡単な設置・接続で、迫力のサウンドをお楽しみいただけるサウンドシステムです。

- テレビの後ろ（背面）に設置できるので、テレビの操作性やデザインに影響しない
- シンクロドライブ対応で、より繊細で広がりのあるサウンド*
- DTS Studio Sound™ 搭載で、臨場感あふれるサウンド
- 番組表を活用し、サウンドモードを自動調整*
- HDMI® ケーブルでかんたん接続
- テレビのリモコンで連動操作（HDMI 連動機能：レグザリンク）

* 対応するレグザとHDMI®ケーブルで接続する必要があります。

ライセンスおよび商標などについて



HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface 及び HDMI ロゴは、米国およびその他の国々における HDMI Licensing, LLC の商標又は登録商標です。



Dolby、ドルビー及びダブルD 記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。



For DTS patents, see <http://patents.dts.com>.
Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks, and DTS Studio Sound is a trademark of DTS, Inc.
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

ルームトウシバ

お客様登録サービス「Room1048」に登録をお願いします！

Room1048 は東芝デジタル商品のお客様登録サービス*です。
ご登録いただくと、さまざまなサービスやサポートが受けられます。

*お客様登録は、Web 限定のサービスです。

>>>ご登録はこちらから！<<<

<http://toshibadirect.jp/room1048/>

目次

本機でできること	2
ライセンスおよび商標などについて	2
安全上のご注意	4
使用上のお願いとご注意	8
同梱物を確認する	9
各部の名前とはたらき	10
サブウーファー	10
準備をする	12
本機を設置する	12
サテライトスピーカーを接続する	13
テレビと本機を接続する	14
AC アダプターを接続する	15
HDMI 対応機器と接続する場合	15
レグザサウンドシステムを楽しむ	16
テレビ（レグザ）の光デジタル音声出力の設定について	16
テレビ（レグザ）の HDMI 連動設定について	16
テレビ（レグザ）の電源オン時優先スピーカー設定について	16
テレビのリモコンで本機を操作する	17
レグザリンクについて	18
サウンドシステム音声連動について	18
故障かな？と思ったとき—症状に合わせて解決法を調べる	19
本機が全く操作できなくなったとき—本機をリセットする	19
本機を初期化する	19
操作	19
音声	20
HDMI 連動	21
仕様	22
保証とアフターサービス	23

安全上のご注意

必ずお守りください

製品本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■ 表示の説明

表 示	表 示 の 意 味
 危険	“取扱いを誤った場合、人が死亡または重傷* ¹ を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡または重傷* ¹ を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、人が軽傷* ² を負うことが想定されるか、または物的損害* ³ の発生が想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の例

図記号	図 記 号 の 意 味
 禁 止	“⊘”は、 禁止 （してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指 示	“●”は、 指示 する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注 意	“△”は、 注意 を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

異常や故障のとき

警告

- 異常に熱くなったり、異臭がしたり、煙が出たりした場合は、**すぐに電源プラグをコンセントから抜く**



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。安全を確認してからお買い上げの販売店にご連絡ください。

- 内部に水や異物がいったり、**すぐに電源プラグをコンセントから抜く**



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

- 落したり、キャビネットを破損したときは、**すぐに電源プラグをコンセントから抜く**



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

- ACアダプターが発熱したり、コードが傷んだりしたときは、**すぐに電源を切り、ACアダプターが冷えたのを確認して電源プラグをコンセントから抜く**



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

使用するとき

警告

- 修理・改造・分解はしない



分解禁止

火災・感電の原因となります。点検・修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。

- スピーカーは付属のものを接続する



指示

付属以外のスピーカーを接続すると、本機の故障や火災の原因となることがあります。

- 本機の開口部に手や足を入れない



禁止

誤って本機の落下によるけがの原因となることがあります。

●特にお子様にはご注意ください。

- 内部に異物を入れない



異物挿入禁止

ステーブル、クリップなどの金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 雷が鳴りだしたら、本機やACアダプターに触れない



接触禁止

感電の原因となります。

- 可燃性ガスエアゾールやスプレーを使用しない



禁止

清掃など、可燃性ガスを本機に使用すると、噴射される可燃性ガスが本機の内部に留まり、スイッチの接点や静電気の火花が引火して、爆発や火災が発生するおそれがあります。

注意

- 大音量で長時間聴き続けない



禁止

耳を刺激するような大きな音量で聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 本機の近くに時計などの磁気の影響を受けやすいものを置かない



禁止

正常に動作しなくなることがあります。

設置するとき

警告

- 屋外や風呂、シャワー室など、水のかかるおそれのある場所には置かない



火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止

- 上に物を置いたり、ペットをのせたりしない



上載せ禁止

- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体、ペットの尿・体毛などが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

- ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かない



禁止

本機が落ちて、けがの原因となります。

注意

- 温度の高い場所に置かない



禁止

直射日光の当たる場所・ストーブのそばなどに置くと、火災の原因となることがあります。また、破損、その他部品の劣化や破損の原因となることがあります。

- 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない



禁止

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

- 風通しの悪い場所に置かない



禁止

内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。

- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- 押し入れや本箱など風通しの悪い場所に押し込まないでください。
- 壁に押しつけないでください。

- 移動させる場合は、ACアダプター・接続コードをはずす



指示

ACアダプターをはずさずに運ぶと、コードが傷つき火災・感電の原因となることや、接続コードなどをはずさずに運ぶと、本機が落下し、けがの原因となることがあります。

ACアダプターと電源コードについて

警告

- 電源プラグは家庭用交流100Vのコンセントに接続する



指示

交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。

- ACアダプターを分解・改造・修理しない



分解禁止

火災・感電の原因となります。

- ACアダプターのコード・電源コードは



禁止

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりしない
 - 引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない
 - 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない
- 火災・感電の原因となります。

- 時々電源プラグを抜いて点検し、プラグやプラグの取り付け面にゴミやほこりが付着している場合はきれいに掃除する



指 示

プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。
(電源プラグは電源オフのときに抜いてください。)

- 通電中のACアダプターにふとんをかけたり、暖房器具の近くやホットカーペットの上に置かない



禁 止

火災、故障の原因となることがあります。

- 水のかかる場所で使用しない



禁 止

火災・感電の原因となります。

- コンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する



指 示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

⚠ 注意

- めれた手で電源プラグを抜き差ししない



めれ手禁止

感電の原因となることがあります。

- 電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っ張って抜かない



引っ張り禁止

コードを引っ張って抜くと、コードやプラグが傷つき、火災・感電の原因となります。電源プラグを持って抜いてください。

- ACアダプターは、付属のものを使用する



指 示

指定以外のACアダプターを使用すると、火災・故障の原因となります。付属のACアダプターは国内専用です。

- 電源コードは、付属のものを使用する



指 示

付属以外の電源コードを使用すると、火災・故障の原因となります。付属の電源コードは、本機付属のACアダプター専用です。

- 電源コードを本機付属のACアダプター以外に使用しない



禁 止

他の機器に使用すると、火災・故障の原因となります。

- 旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜け

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

- 付属のACアダプターを本機以外の他の用途に使用しない



禁 止

本機以外の他の用途に使用すると、火災・故障の原因となります。

- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む



指 示

確実に差し込んでいないと、火災・感電の原因となります。

使用上のお願いとご注意

取扱いに関すること

- 移動させるとき
引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでおくるんでください。また、衝撃・振動を与えないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 長時間ご使用になっていると本体が多少熱くなりますが、故障ではありません。
- 本機には大音量スピーカー用の磁石が内蔵されています。クレジットカードやビデオテープ、ハードディスクなどの磁気記録媒体からデータが消えてしまう恐れがありますので、これらのものを本機に近づけないでください。

置き場所に関すること

- 本機は水平な場所に設置してください。ぐらぐらする机や傾いている所で使わないでください。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近く、締め切った車内など、温度が高くなる場所に置かないでください。故障の原因となります。

結露（露付き）について

結露は本機を傷めます。よくお読みください。

たとえば、よく冷えたビールをコップにつぐと、コップの表面に水滴がつきます。これを「結露（露付き）」といいます。この現象と同じように、本機の部品、部品内部などに水滴がつくことがあります。

■ “結露” はこんなときおきます。

- 本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき
- 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところに置いたとき

- 夏季に、冷房のきいた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動したとき
- 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋に置いたとき

■ 結露がおきそうなときは、本機をすぐに使用しない

- 結露がおきた状態で本機をお使いになりますと、部品を傷めることがあります。その場合は本機を一定の温度の場所にしばらく置いてからご使用ください。

お手入れに関すること

- 本体のよごれは柔らかい布で軽く拭き取ってください。ティッシュペーパーや硬い布は使わないでください。ベンジン、シンナーは絶対使用しないでください。変色したり、塗装がはげたりする原因となります。

本機を廃棄するとき

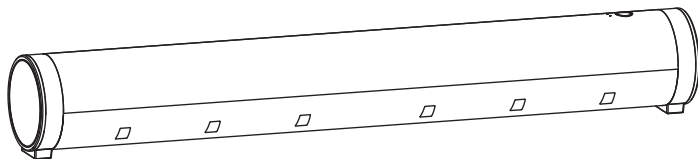
- 廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

免責事項について

- 地震や雷などの自然災害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断など）に関して、当社は一切責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

同梱物を確認する

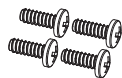
以下のものがあることをご確認ください。



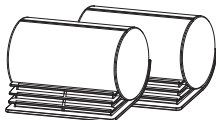
サブウーファー



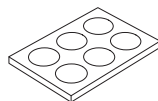
電源コード付き
ACアダプター
([P.15ページ](#))



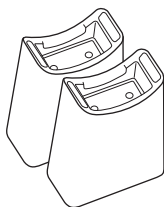
ネジ 4本
([P.12ページ](#))



サテライトスピーカー 2個
([P.12、13ページ](#))



サテライトスピーカー
立て置き用シール 1枚
([P.12ページ](#))



スペーサー 2個
([P.12ページ](#))

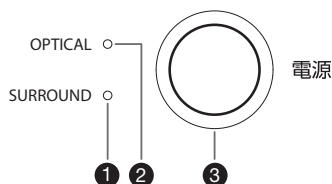


取扱説明書（本書）

各部の名前とはたらき

サブウーファー

上面



①「SURROUND」表示

サラウンド機能が働いているときに点灯します。

②「OPTICAL」表示

光デジタル音声入力があるときに点灯します。

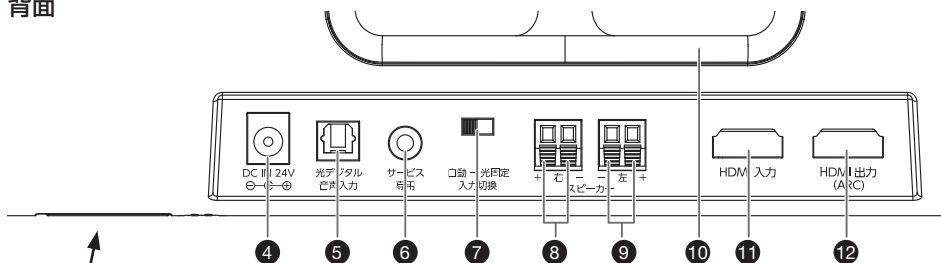
③電源ボタン/「電源」表示

本機の電源を「入」/「切」します。

電源「入」のときに点灯し、ミュート（消音）中に点滅します。

- Dolby® Digital を再生中には「SURROUND」表示、「OPTICAL」表示、「電源」表示が同時に点滅します。

背面



※サブウーファー下面の端子は、製造工程やアフターサービスで使用するものです。お客さまはお使いになれません。

④ DC 入力端子（[15 ページ](#)）

付属の AC アダプターを接続します。

⑤ 光デジタル音声入力端子（[14 ページ](#)）

テレビに ARC 対応の HDMI 入力端子がない場合、または ARC 非対応の HDMI ケーブルを使用する場合は、本機とテレビを光デジタル音声ケーブルでも接続することが必要です。

⑥ サービス専用端子

アフターサービス用です。何も接続しないでください。

⑦ 入力切換スイッチ (14 ページ)

入力 (自動 / 光固定) の切り換えに使用します。

通常は「自動」にして使用します (お買い上げ時の設定)。音声入力を光デジタル音声入力のみにする場合は「光固定」に切り換えます。

⑧ 右スピーカー端子 (13 ページ)

テレビに向かって右側のサテライトスピーカーを接続します。

⑨ 左スピーカー端子 (13 ページ)

テレビに向かって左側のサテライトスピーカーを接続します。

⑩ 空気穴

低音を豊かにします。ふさがないように注意してください。

⑪ HDMI 入力端子 (15 ページ)

HDMI 出力端子のある機器 (レグザリンク対応機器など) を接続します。

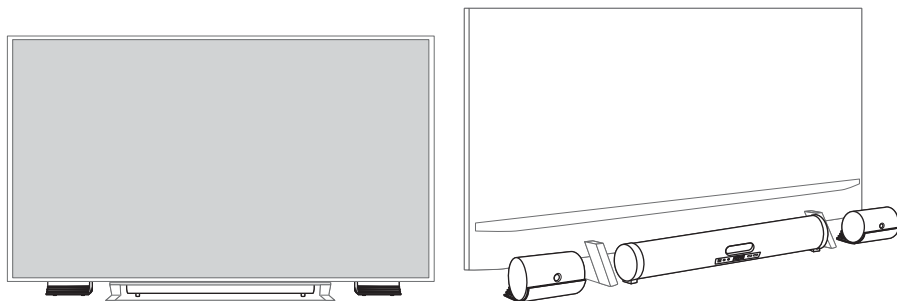
⑫ HDMI 出力 (ARC) テレビ端子 (14 ページ)

HDMI(ARC) 入力端子のあるテレビを接続します。

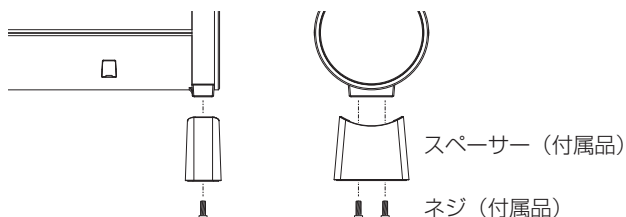
準備をする

本機を設置する

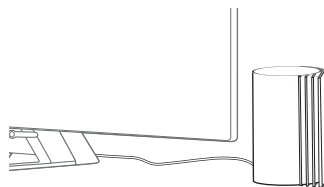
下の図を参考に、テレビの背面に本機を設置してください。



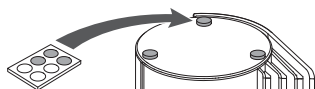
- サテライトスピーカーは、2つとも同じです。
- サブウーファーの設置や配線が困難なときは、付属のスペーサーをサブウーファー左右下面の足の部分に取り付けてください。付属のネジで片側2か所ずつ締めてください。プラスドライバー（JIS 1番、直径 5mm）をご用意ください。



- サテライトスピーカーは、立てて設置することもできます。



その際は、サテライトスピーカーの底面側に、付属のサテライトスピーカー立て置き用シールを図の位置に3枚ずつ貼って足にしてください。

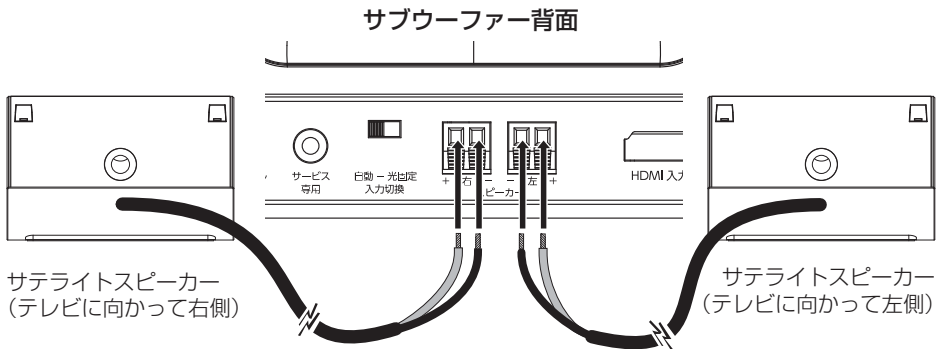


サテライトスピーカーを接続する

サテライトスピーカーは、2つとも同じです。

テレビに向かって右側（背面から見て左側）のサテライトスピーカーを「右」端子に、テレビに向かって左側（背面から見て右側）のサテライトスピーカーを「左」端子につなぎます。

- スピーカーケーブルは赤を+（プラス）端子に、黒を-（マイナス）端子に差し込みます。
- 接続するときは、本機を傷つけないように、本機の下に柔らかい布などを敷いてください。



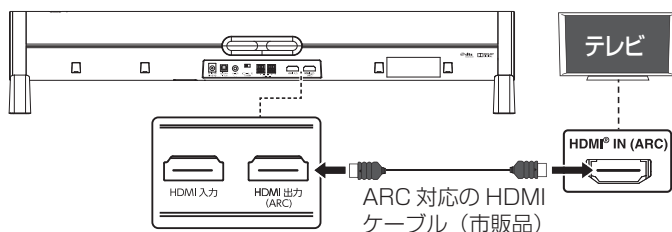
ご注意

- スピーカー端子の+と-をショートさせないでください。
- スピーカーケーブルの被覆部分を、スピーカー端子に挟み込まないように接続してください。

テレビと本機を接続する

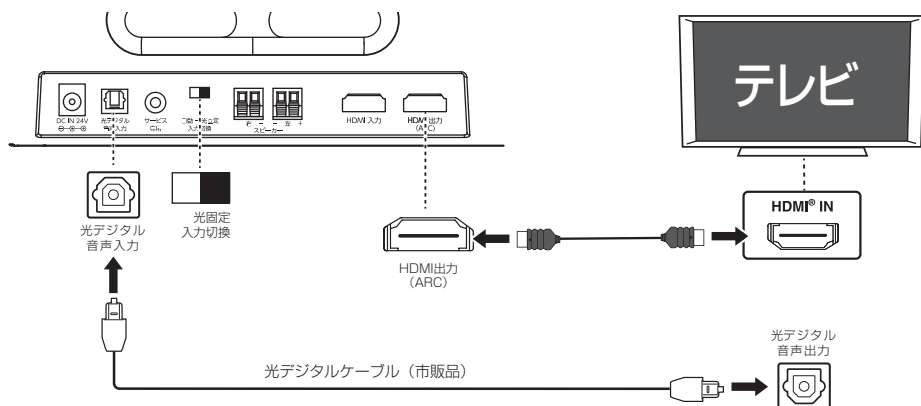
HDMI (ARC)対応のテレビと接続する場合

本機を ARC 対応の HDMI ケーブル（市販品）で接続することにより、テレビ音声を本機から出力できます。



テレビがHDMI (ARC)に対応していない場合

テレビと本機を光デジタル音声ケーブル（市販品）で接続することにより、テレビ音声を本機から出力できます。その際は、本機の入力切換スイッチを「光固定」に切り換えてください。

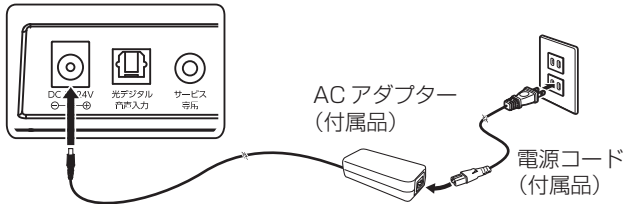


ご注意

- HDMI ケーブルは、コネクタと端子の形が合うことを確認して、まっすぐきちんと差し込んでください。
- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴの表示があるハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。（標準 HDMI ケーブルでは、正常に動作しないことがあります。）

AC アダプターを接続する

ACアダプターをサブウーファー背面のDC入力端子につなぎ、ACアダプターに電源コードをつなぎます。スピーカーや外部機器の接続が終わったら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



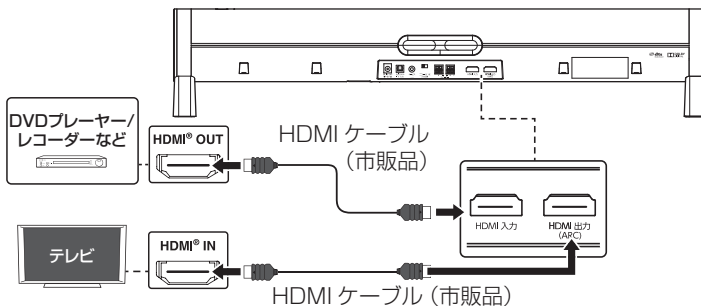
付属の AC アダプターと電源コード以外のものは、本機に使用しないでください。
付属の AC アダプターと電源コードは、本機以外には使用しないでください。

ご注意 スピーカーや外部機器のすべての接続が終わるまでは、電源プラグをコンセントには差し込まないでください。また、外部機器との接続を変えるときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

HDMI 対応機器と接続する場合

HDMI 対応機器（DVD プレーヤー / レコーダーなど）からの音声を出力したり、テレビに音声信号を送信したりすることができます。

1. 本機の HDMI 入力端子と対応機器の HDMI 出力端子を HDMI ケーブル（市販品）でつなぐ
2. 本機の HDMI-ARC 出力端子とテレビの HDMI 入力端子を HDMI ケーブル（市販品）でつなぐ



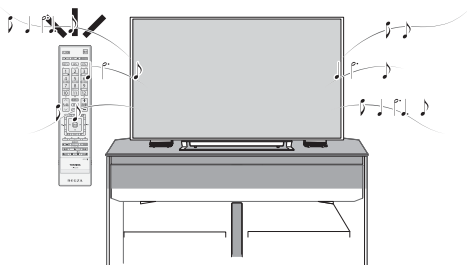
ご注意

- HDMI ケーブルは、コネクタと端子の形が合うことを確認して、まっすぐきちんと差し込んでください。
- 4K 対応機器の HDMI 出力端子は 4K 対応テレビの HDMI 入力端子に接続してください。本機の HDMI 入力端子には接続しないでください。

レグザサウンドシステムを楽しむ

本機はHDMI 連動機能（レグザリンク）にて、テレビ（レグザ）のリモコンによって、音量調整やミュート（消音）、電源の連動などを行います。

テレビ（レグザ）側で次の設定を正しくしないと、本機より音声出力されません。



テレビ（レグザ）の光デジタル音声出力の設定について

本機と接続したテレビ（レグザ）の光デジタル音声出力設定を「PCM」に設定してください。テレビによっては表示される項目や操作などが異なります。

詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。

テレビ（レグザ）のHDMI 連動設定について

本機と接続したテレビ（レグザ）のHDMI 連動機能を「使用する」、サウンドシステム連動を「使用する」に設定してください。テレビ（レグザ）の機種によっては「サウンドシステム連動」は「AV システム連動」と表示される場合があります。詳しくは本機と接続したテレビの取扱説明書もご覧ください。

- HDMI 連動機器の接続、設定を変更した場合は以下の操作をしてください。

- ・接続機器および本機の電源を入れ直してください。
- ・すべての接続機器の動作を確認してください。

※ 機器に割り振られる番号は接続形態によって変化する場合があります。

テレビ（レグザ）の電源オン時優先スピーカー設定について

- 電源オン時優先スピーカーの設定を「サウンドシステムスピーカー」または「シンクロドライブ」にすることで、テレビの電源「入」に連動して本機の電源も自動的に「入」になり、本機から音が出るようになります。

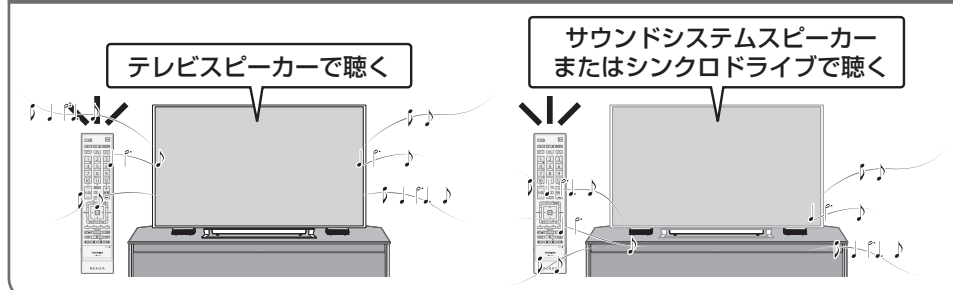
※ テレビ（レグザ）の機種によっては、「電源オン時優先スピーカー」は「優先スピーカー」と表示されたり、「サウンドシステムスピーカー」は「AV システムスピーカー」と表示されたりする場合があります。詳しくは本機と接続したテレビの取扱説明書もご覧ください。

テレビのリモコンで本機を操作する

- テレビ（レグザ）のリモコンで操作します。
 ※ テレビによっては、操作や表示される項目などが異なります。詳しくは本機と接続したテレビ（レグザ）の取扱説明書もご覧ください。レグザリンクについては、HDMI 連動機能（18 ページ）をご参照の上、テレビ（レグザ）の HDMI 連動機能を設定してください。

テレビ（レグザ）のリモコンで「音量調整」や「ミュート（消音）」できます

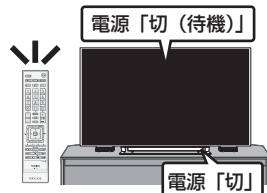
スピーカーの切り換えができます



- ※ HDMI ケーブルで接続したテレビ（レグザ）がシンクロドライブに対応している機種の場合は、シンクロドライブに設定することにより、テレビの高音用スピーカーと本機を同期して、同時に音を出します。
 対応機器については、ホームページで順次公開する予定です（www.toshiba.co.jp/regza）。

電源の「切（待機）」が連動します

- テレビ（レグザ）の電源を「切（待機）」状態にすると自動的に本機の電源も「切」になります。



レグザリンクについて

HDMI連動機能

- 本機の HDMI 連動機能（レグザリンク）では、HDMI で規格化されている HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。（[P. 17 ページ](#)）
- 本機と東芝の HDMI 連動機器（テレビ、レコーダーなど）を HDMI ケーブル（市販品）で接続することで利用できます。
 - ※ HDMI 連動機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- 対応機器以外の機器を HDMI ケーブルで接続した場合に一部の連動操作ができることがあります。その動作については保証の対象ではありません。また、対応機器であっても、機器によっては一部の連動操作ができない場合があります。

レグザリンクの準備

1. 本機とレグザリンク対応の機器（テレビ、レコーダーなど）を HDMI ケーブル（市販品）で接続する。（[P. 15 ページ](#)）
2. 各機器の HDMI 連動設定をする。
 - ・接続した機器は、機器の取扱説明書に従って設定してください。

サウンドシステム音声連動について

HDMI ケーブルで接続したテレビ（レグザ）がサウンドシステム音声連動に対応している機種の場合は、ジャンルに合った適正なサウンドモードに自動的に切り換わります。

- 放送中や外付け / 内蔵ハードディスクに録画した番組のジャンルに合わせて自動的にサウンドモードが切り換わります。
 - ※ 視聴中や再生する番組にジャンル情報が無いときは、特別な音響効果を施さないモードに切り換わります。
 - ※ テレビ（レグザ）の機種によっては「サウンドシステム音声連動」は「AV システム音声連動」と表示される場合があります。詳しくは本機と接続したテレビの取扱説明書もご覧ください。
 - ※ アナログ放送には対応していません。
- 対応機器については、ホームページで順次公開する予定です。
(www.toshiba.co.jp/regza)
 - ※ レコーダーやプレーヤーなどからのジャンル情報には対応していません。

ご注意

- サウンドシステム音声連動で視聴中、番組情報に応じてサウンドモードが切り換わるときに、音が途切れることがあります。

故障かな？と思ったとき—症状に合わせて解決法を調べる

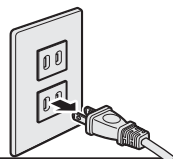
- 本機が正しく動作しないなどの症状があるときは、以降の記載内容から解決法をお調べください。
- 解決法の対処をしても症状が改善されない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 表の「」の欄は関連事項が記載されているページです。

本機が全く操作できなくなったとき—本機をリセットする

- 接続機器が認識されないなどの場合や、サブウーファースの操作ボタンでも操作できなくなった場合は、以下の操作をしてみてください。

リセットのしかた

- ① 電源プラグをコンセントから抜く
- ② 1分間以上待つ
- ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる
・リセット後は、音量は工場出荷時の設定値になります。



本機を初期化する

初期化（工場出荷状態に戻す）のしかた

- ① 本機の電源を入れる
- ② 本機の電源ボタンを10秒以上押し続ける
・本機の電源が自動で切れ、工場出荷状態に戻ります。

操作

電源が入らない

確認すること	解決法・その他	
電源コードまたは電源プラグが抜けていませんか。	・電源コードを AC アダプターに差し込みます。 ・電源プラグをコンセントに差し込みます。	15
本機から AC アダプターがはずれていませんか。	・AC アダプターをサブウーファー背面の DC 入力端子 24V につなぎます。	15

テレビのリモコンで操作できない

確認すること	解決法・その他	
接続は正しいですか。	・HDMI ロゴ表示のついた規格に合った HDMI ケーブルで正しく接続します。 ※はじめて HDMI 連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。	14

確認すること	解決法・その他	15
対応機器ですか。	- 最新情報はホームページ www.toshiba.co.jp/regza でお知らせしています。 ※ 対応機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。	—
本機と接続機器の設定は正しいですか。	接続機器側の HDMI 連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください)	16

音声

音が出ない

確認すること	解決法・その他	15
音量が最小になっていませんか。	テレビのリモコンで音量を上げます。	—
サブウーファースの「電源」表示が点滅していませんか。	テレビのリモコンの「消音」ボタンを押すとミュート(消音)を解除できます。(テレビのリモコンの「音量」ボタンでも解除されます)	—
機器が正しく接続されていますか。	- 本機と機器との接続を確認します。接続に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちのほかのケーブルで、再度接続してみてください。 - ARC 機能を使用する場合、テレビの HDMI(ARC) 入力端子へ接続しているか確認してください。	14
サブウーファースのスピーカー端子から、スピーカーケーブルがはずれていませんか。	- スピーカーケーブルがはずれていないか確認します。 - スピーカーケーブルの被覆部分をスピーカー端子に挟み込んでいないか確認します。	13
テレビの HDMI 連動設定は正しく設定されていますか。	HDMI 連動機能を「使用する」、サウンドシステム連動を「使用する」に設定してください。	16
テレビのスピーカー切り換えは正しいですか。	本機のスピーカーで聴く場合は、テレビのスピーカー切り換えを「サウンドシステムスピーカー」または「シンクロドライブ」に設定してください。	17
テレビの光デジタル音声設定は正しいですか。	テレビの光デジタル音声設定を「PCM」にしてください。	16
入力切換スイッチの位置は正しいですか。	HDMI (ARC) 対応のテレビと接続する場合は、「自動」に設定してください。光デジタル音声ケーブル(市販品)で接続する場合は、「光固定」に設定してください。	11

映像と音声が遅れる

確認すること	解決法・その他	ページ
テレビのスピーカー切り換えや入力切り換えを操作しましたか。	テレビのスピーカー切り換え時は、音声が出力されるまでに時間がかかることがあります。HDMI 入力の切り換え時は接続機器によって映像と音声が出力されるまでに数十秒かかることがあります。	—

HDMI 連動

機器を接続しても連動ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	- HDMI ロゴ表示のついた規格に合った HDMI ケーブルで正しく接続します。 ※ はじめて HDMI 連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。 - 光デジタルのケーブルを接続しただけでは連動しません。HDMI ケーブルを接続してください。	14
対応機器ですか。	- 最新情報はホームページ www.toshiba.co.jp/regza でお知らせしています。 ※ 対応機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。	—
本機と接続機器の設定は正しいですか。	接続機器側の HDMI 連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください)	16

テレビの電源を切(待機)にした時に、本機の電源が「切」にならない

確認すること	解決法・その他	ページ
テレビの HDMI 連動設定は正しく設定されていますか。	- HDMI 連動設定のテレビは、連動機器電源オフを「連動する」に設定してください。 ※ テレビによっては、操作方法や表示される項目が異なります。詳しくは本機と接続したテレビ(レグザ)の取扱説明書をご覧ください。	—

テレビの電源を「入」にしても、本機の電源が自動で「入」にならない

確認すること	解決法・その他	ページ
テレビの HDMI 連動設定は正しく設定されていますか。	- HDMI 連動設定の電源オン時優先スピーカーを「サウンドシステムスピーカー」または「シンクロドライブ」に設定してください。 ※ テレビによっては、操作や表示される項目などが異なります。詳しくは本機と接続したテレビ(レグザ)の取扱説明書をご覧ください。	16

仕様

品名	東芝サウンドシステム	
形名	RSS-AZ55	
電源・電圧	入力端子 DC24V、定格電流 2.5A(サブウーファー入力端子) AC100V、50/60Hz (付属の AC アダプター使用時)	
インピーダンス	サテライトスピーカー 8 Ω	
外形寸法 (幅×高さ×奥行き)	サブウーファー: 660mm × 96mm × 90mm (スタンド含む) サテライトスピーカー: 150mm × 96mm × 113mm (スタンド、底板含む)	
質量	3.5kg	
スピーカー	サブウーファー	75mm ø × 2
	サテライトスピーカー	33mm × 55mm × 2 (2個)
実用最大出力合計値	80W (非同時駆動、JEITA)	
実用最大出力	サテライトスピーカー: 20W + 20W、 サブウーファー: 40W (非同時駆動、JEITA)	
入出力端子	HDMI 入力	19 ピン (タイプ A) × 1
	HDMI 出力 (A R C)	19 ピン (タイプ A) × 1
	光デジタル 音声入力	光コネクタ 角型ジャック
スライドスイッチ	入力切換 (自動 — 光固定)	
対応フォーマット	Dolby® Digital、リニア PCM	
サウンド	DTS Studio Sound™	
使用条件	5℃～35℃	

保証とアフターサービス

必ずお読みください

修理・お取り扱いについてご不明な点は

お買い上げの販売店にご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、以下の窓口にご相談ください。

「東芝テレビご相談センター」 [受付時間] 365日/9:00～20:00

【一般回線・PHS からのご利用は】(通話料:無料)

フリーダイヤル

クワン

クローナシ



0120-97-9674

【携帯電話からのご利用は】(通話料:有料)



ナビダイヤル®

0570-05-5100

- IP 電話などでフリーダイヤルサービスをご利用になれない場合は (通話料:有料)

03-6830-1048

【FAX からのご利用は】(通話料:有料)

03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する株式会社東芝を含む東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供することがあります。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。

www.toshiba.co.jp/regza

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。

その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ (www.toshiba.co.jp) をご参照ください。

保証書 (一体)

- 保証書は、この取扱説明書に記載されています。
- 保証期間は買い上げの日から1年間です。
- 保証書は、必ず「買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのと、たいせつに保管してください。

補修用性能部品の保有期間

- サウンドシステムの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理について

- **お客様が貼られたシールなどについて**
修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。
- **保証期間中は**
修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

保証書

持込修理

品名	東芝サウンドシステム		
形名	RSS-AZ55		
★お名前	ふりがな	様	
★お客様	ご住所		
★販売店	電話		
保証期間	本体	1 年	★お買い上げ日
			年 月 日から
★ご住所	住所・店名		
	電話		

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとで無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間経過後の修理について詳しくは取扱説明書の「保証とアフターサービス」（P.23 ページ）をご覧ください。

東芝ライフスタイル株式会社

〒198-8710 東京都青梅市末広町2-9

国内サービス部門

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-1-8 東芝万世橋ビル TEL 03-3257-6028

本書は取扱説明書などの注意書による正常なご使用において、上記保証期間中に故障した場合、本書記載内容にしたがって、無料修理をお約束するものです。

保証期間中に故障が発生したときは、本書と商品をご持参のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

★印欄に記入がないときは無効です。本書をお受け取りの際は必ず記入をご確認ください。

また、本書は再発行しませんので、紛失しないようにたいせつに保管してください。

- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - 誤ったご使用や不当な修理・改造で生じた故障・損傷。
 - お買い上げ後の落下や輸送などで生じた故障・損傷。
 - 火災、天災地変（地震、風水害、落雷など）、塩害、ガス害、異常電圧で生じた故障・損傷。
- 本書のご提示がない場合。
- 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句が書きかえられた場合。
- 一般家庭以外（たとえば業務用など）に使用された場合の故障・損傷。
- ご使用によるよれ、キズ。

（チ）塗装面およびメッキ部の摩耗や打痕、プラスチック部の損傷。

- 出張修理を行った場合には出張に要する実費を申し受けます。
- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。
- 本書は日本国内でのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本商品の使用または使用不能による付随的な損害に關しては、保証・補償いたしかねます。
詳しくは取扱説明書をご確認ください。
- ご転居またはご贈答品などで、お買い上げの販売店に修理のご依頼ができない場合には、取扱説明書の「保証とアフターサービス」（P.23 ページ）に記載の「東芝テレビご相談センター」窓口にご相談ください。

修理メモ

修理年月日	修理内容	担当
年 月 日		
年 月 日		

<個人情報の取扱いについて>

- 本書にご記入いただいた住所等の情報は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。
- 修理のために、当社から修理委託している保守会社などに必要なお客様の個人情報を預託する場合がございますが、個人情報保護法および当社と同様の個人情報保護規程を遵守させていただきますので、ご了承ください。

東芝ライフスタイル株式会社

〒198-8710 東京都青梅市末広町2-9 ※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

© 2015 Toshiba Lifestyle Products & Services Corporation
1202-0001235 V1